

「NEXCO中日本」ブランド



ブランド・ネーム

会社の英語表記の一部である「Nippon Expressway Company」の頭文字であると同時に「NEXT（次なる）」「Co（共に）」という、ふたつの言葉を組み合わせ私たちの姿勢や熱意を表現しました。

ロゴマーク

シンボルマークは、頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムをあらわすと同時に「道进行ること」がもたらしてくれる心の躍動感をあらわしています。ロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりある道路空間を表現しています。

ブランド・カラー

ネクスコ・オレンジ。中部日本エリアの活発なにぎわいをイメージした、力強い、いきいきとしたオレンジ色。

ご案内

● NEXCO中日本お客さまセンター

お客さまからのお問合わせに正確でわかりやすくご案内いたします。

0120-922-229

● 道路緊急ダイヤル

高速道路で異常を発見された際の専用ダイヤルです。ご協力をよろしくお願いいたします。

#9910

● ハイウェイテレホン

お客さまのいる場所から最も近い地域のハイウェイテレホンに接続する専用ダイヤルです。最新の高速道路の交通情報を24時間自動音声で提供しています。

#8162

● 交通情報携帯サイト「I Highway 中日本」



『高速日和』公式ホームページ
<http://kousokubiyori.jp/>
高速道路でドライブ! 料金検索や車のおでかけ情報・旅サイトです。

VOC FREE T&K

VOC(揮発性有機化合物)を含まない植物油インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。



適切に管理された森林から生産されたことを示すFSC認証紙を使用しています。



視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント(書体)を使用しています。

未来が変わる。日本が変わる。



みちの明日へ
NEXCO
中日本

中日本高速道路株式会社 <http://www.c-nexco.co.jp>

〒460-0003
名古屋市中区錦2-18-19 三井住友銀行名古屋ビル 2010年6月発行



みちの明日へ

NEXCO

中日本

NEXCO中日本

CSR 報告書 2010

Corporate Social Responsibility Report

～安全・安心・快適な「百年道路」を目指して～

ダイジェスト版



「CSR経営」を推進し、 「世界一の高速道路会社」を実現します。



中日本高速道路株式会社
代表取締役会長 兼 社長 CEO

金子 剛一 *Kunihiro Kono*

私たちは、経営理念の根幹をなす企業ビジョンとして「世界一の高速道路会社」を掲げ、それを「より良い会社でより強い会社」を目指すことによって実現します。

私たちは、常に経営理念に立ち返り、「6つの基本姿勢」を実践します。「お客さま第一」に徹し、「社会の公器」としての高い使命感と強い現場力の発揮により、「安全・安心・快適」な高速道路を実現します。

わが国の経済情勢は、依然厳しい雇用情勢など、楽観を許さない情勢にあります。一方、少子高齢化・人口減少などの人口構成の変化、グローバル化、価値観の多様化など、社会情勢も激変しています。

このように、経済・社会情勢が大きく変化している中で、当社グループには、高速道路に関する新たな政策や地球環境保全の取り組み、外国人観光客の誘致などの観光政策への対応とともに、地域間交流・地域活性化への貢献などが求められています。

当社グループは総力を挙げて、あらゆる事業活動を通じ、広く日本の産業・経済・社会の活性化に貢献します。

今般、2005年10月の会社設立から5年目を迎えたのを機に、2010年度からは、5ヵ年を通じた経営基本方針を「CSR経営の推進と飛躍への挑戦」としました。

高速道路ネットワークの早期完成や、「百年道路」の実現、サービスエリアでのサービスの充実など、日々の事業活動を通じてステークホルダーの皆さまに満足していただくために新たな挑戦を続ける、という決意を、改めて明確に示したものであります。

高速道路という重要な社会インフラを担う当社グループにとっては、CSRは本業そのものであり、事業にビルトインして取り組む、という経営姿勢に立っています。

経営環境がいかに変化しようとも、柔軟かつ迅速に対応し、強い現場力を発揮し、社会から信頼される経営を進めます。

そのために、私たちは常に中長期視点に立って、毎年ローリング方式によりグループ共通の5ヵ年計画「チャレンジV（ファイブ）」を策定しています。経営環境の変化を、迅速に経営施策に反映させるためです。そしてCSR報告書は、この経営計画の進捗報告でもあります。

私たちが「世界一の高速道路会社」の実現に向けて日々取り組んでいる状況をご覧いただき、忌憚ないご意見を頂戴できれば幸いです。

2010年6月

NEXCO中日本グループのCSR経営

経営理念

私たちの役割

私たちは、常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、更に広く日本経済全体の活性化に貢献します。

私たちの目指す企業ビジョン

私たちの企業ビジョンは「世界一の高速道路会社」であり、それを「より良い会社でより強い会社」を目指すことによって実現します。

私たちは、

- ・「世界一の高速道路会社」とは、グループ社員が持つ技術力・運営能力・意欲・情熱により、お客さまに世界一のサービスを提供し、着実に成長し続ける会社
- ・「より良い会社」とは、常に革新を続け、企業の社会的責任を果たすことにより、社会に信頼され、喜ばれる会社であり、社員も家族も胸を張って誇れる会社
- ・「より強い会社」とは、高い競争力・技術力を有し、いかなる環境においても、適正な利潤をあげ黒字を続ける会社 であると考えます。

私たちの基本姿勢

1. お客さまを第一にする
2. 社会の信頼を獲得する
3. 革新的であり続ける
4. 環境を重視する
5. 現場に立って考え行動する
6. チームワークを大切にする

経営方針

2010～2014を通じた経営基本方針

「CSR経営の推進と飛躍への挑戦」

2010年度の経営方針

1. 環境変化への柔軟かつ迅速な対応
2. グループ総合力の強化
3. 2010年度施策の確実な実行

CSR重点施策

安全・安心・快適の推進

高速道路ネットワークの早期開通、「百年道路」計画の推進、サービスエリアの大規模な改良 など

地域連携の強化、地域社会・経済への貢献

包括的提携協定、「ぶらっとパーク」の改良・充実、災害支援、スマートIC整備、地産地消の促進、ビジット・ジャパン推進 など

環境・持続可能社会への貢献

- ・地球温暖化抑制への取り組み／高速道路ネットワークの早期開通、「エコ・エリア」の推進、EV急速充電スタンドの整備 など
- ・資源の3R／サプライチェーンマネジメント、植物発生材の堆肥化 など
- ・地域環境・生物多様性への配慮／エコロードの推進、COP10への参画 など
- ・環境マネジメントへの取り組み／ISO 14001の認証取得、環境会計、中長期目標の設定 など

NEXCO中日本グループの概要

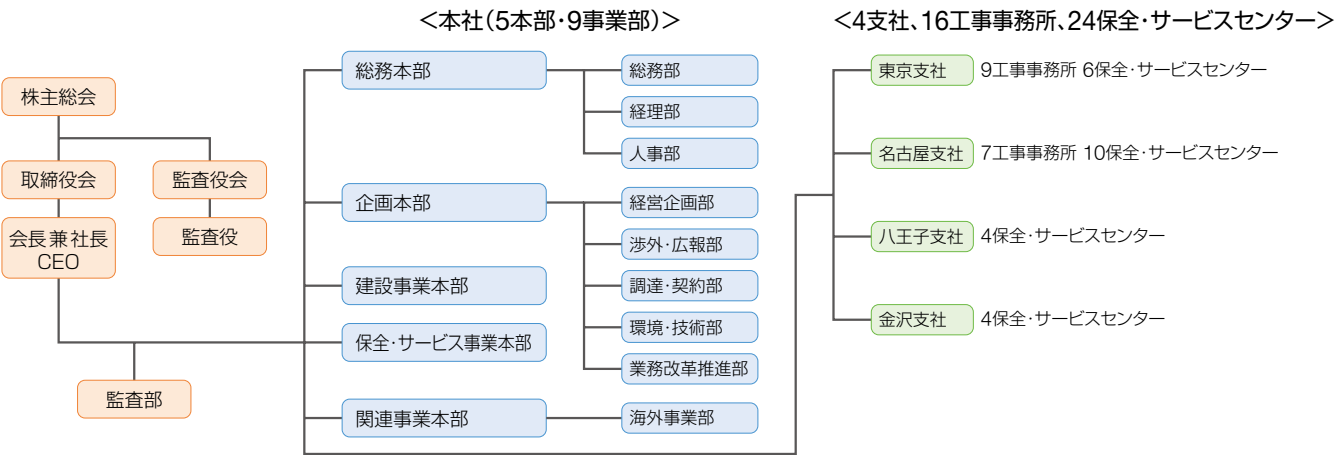
私たちNEXCO中日本グループは、グループ全体で共通の目標に向け活動しています。
まず「お客さま第一主義」を掲げ、社員一人ひとりが高い意識を持って行動すること。
そしてさまざまな活動を通じて「社会に役立つ」「人々の生活と社会を豊かにする」企業として努力する。
さらに企業としての活動だけでなく、社員の一人ひとりが積極的に社会に貢献していくことが大切だと考えています。

会社概要



商号：中日本高速道路株式会社 (Central Nippon Expressway Company Limited)
代 表 者：代表取締役 会長兼社長 CEO 金子 剛一
本社所在地：名古屋市中区錦2丁目18番19号
設立年月日：2005年10月1日
従 業 員 数：2,096名〔グループ全体 8,387名〕※2010年3月31日現在
資 本 金：650億円
事 業 内 容：高速道路の建設、保全・サービス事業、サービスエリアその他の関連事業

組織体制



グループ概要

■連結子会社 12社

- 《サービスエリア》 中日本エクシス(株)
《料金収受》 中日本エクストール横浜(株)、中日本エクストール名古屋(株)
《交通管理》 中日本ハイウェイ・パトロール東京(株)、中日本ハイウェイ・パトロール名古屋(株)
《維持修繕》 中日本ハイウェイ・メンテナンス東名(株)、中日本ハイウェイ・メンテナンス中央(株)
中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)、中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸(株)
《保全点検》 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株)、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
《サービス》 NEXCO中日本サービス(株)

■持分法適用関連会社 5社

- 《技術開発／研究》 (株)高速道路総合技術研究所
《サービス》 (株)NEXCO保険サービス
《トラクタターミナル》 北陸高速道路ターミナル(株)
《ICT》 (株)NEXCOシステムズ
《料金収受機械保守》 ハイウェイ・ツール・システム(株)

NEXCO中日本グループの事業概要

高速道路事業

高速道路の整備(建設事業)

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構と締結した「協定」の完成年度、事業費を基本に、安全と品質を確保し、環境保全、コスト削減を図りながら早期開通に努め、地域の期待に応えます。



新東名 鑑田沢橋 (静岡県富士市)

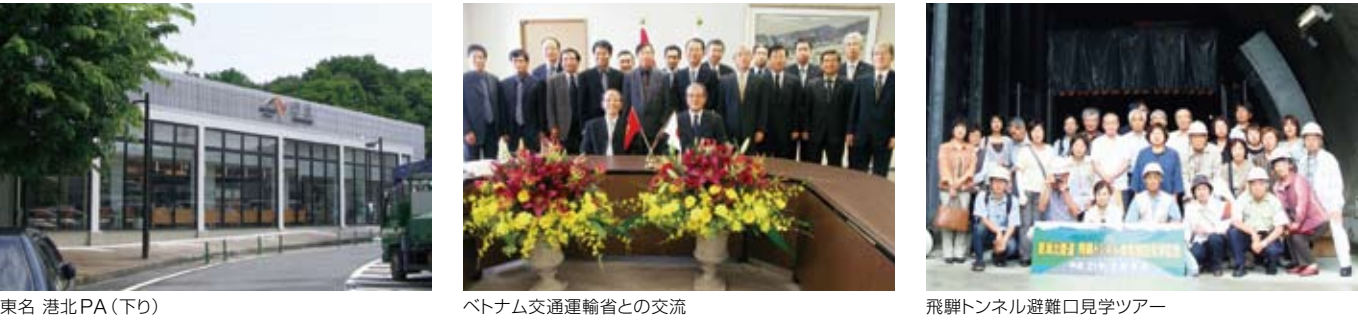
高速道路の維持管理(保全・サービス事業)

沿線地域の皆さまの生活を支える高速道路を管理・運営しており、「お客さま第一主義」のもと、お客さまに満足していただけるサービスを24時間365日提供します。



関連事業

サービスエリア事業では、多様なニーズにお応えするとともに、サービスエリアの複合商業施設化を進め、「お招き」と「おもてなし」の心で、お客さまに快適なエリアを創造します。
また、その他の事業では、アジアを中心とした海外事業の展開、重要なインフラを担う当社の事業特性やこれまで培ってきたノウハウを最大限に活用し、カード事業・旅行業など新しいビジネスを推進します。



東名 港北PA(下り)

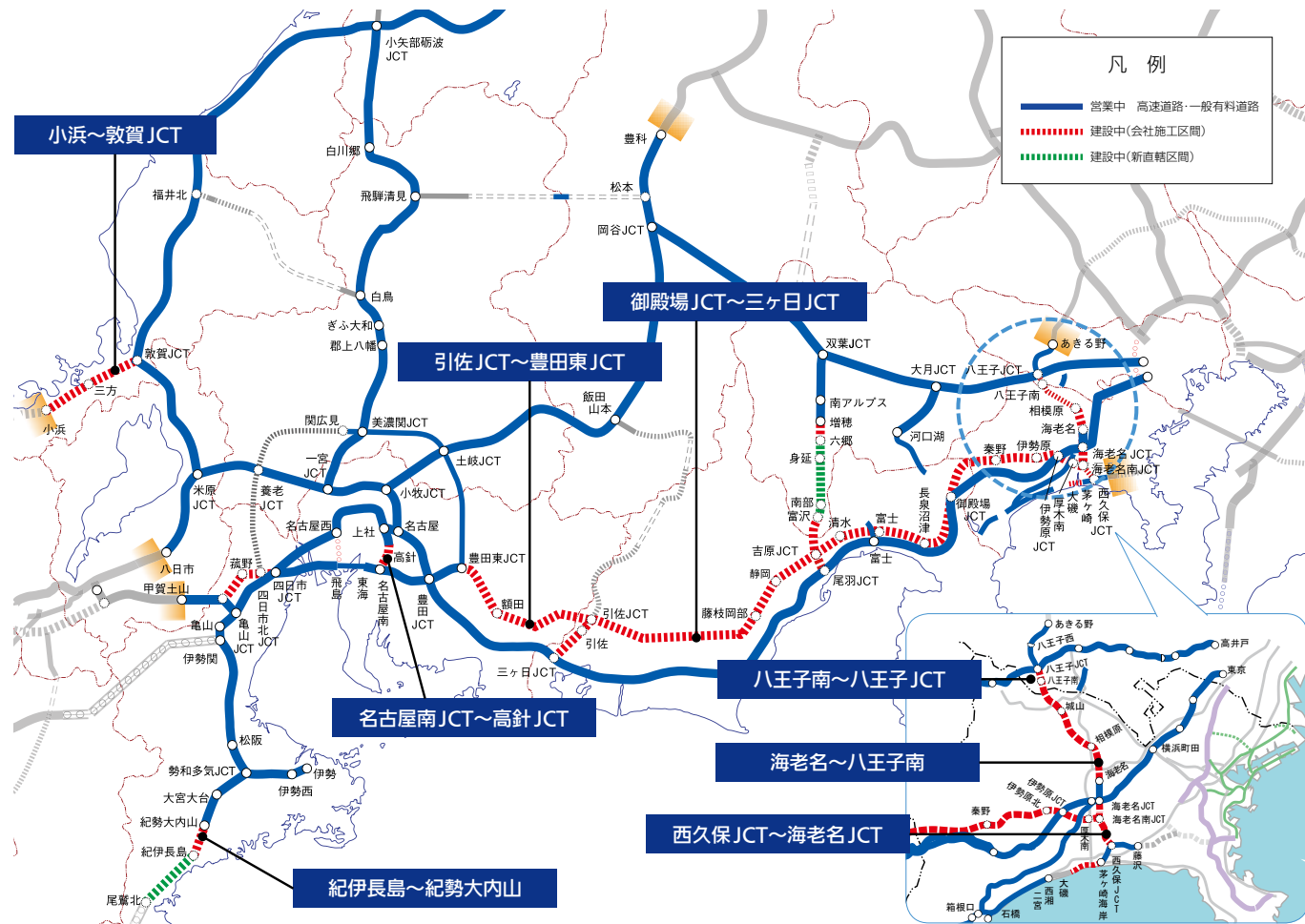
ベトナム交通運輸省との交流

飛騨トンネル避難口見学ツアー

高速道路ネットワークの拡大

信頼性の高い高速道路ネットワークを構築し、
お客さまにとって安全・安心・快適な高速道路空間を提供します。

NEXCO中日本グループでは、取り巻く経営環境の変化に機動的に対応しながら、2014年度までに315kmの高速道路を新規に開通し、社会経済活動の根幹を支えるインフラとして、地域間相互の交流、沿線地域の産業の活性化、他の交通機関との有機的結合による人・モノ・情報の流れの円滑化などに貢献していきます。



名古屋二環(名古屋南JCT～高針JCT)開通
(2010年度)



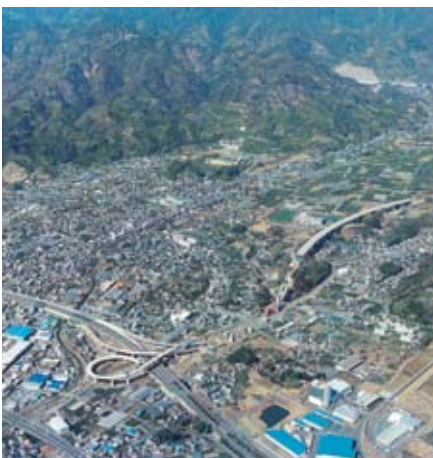
名古屋二環 鳴海IC付近

圏央道(西久保JCT～八王子JCT)全通
(2012年度)



圏央道 八王子JCT

新東名(御殿場JCT～豊田東JCT)全通
(2014年度)



新東名 尾羽(おばね)JCT

安全・安心・快適な 「百年道路」の実現に向けて

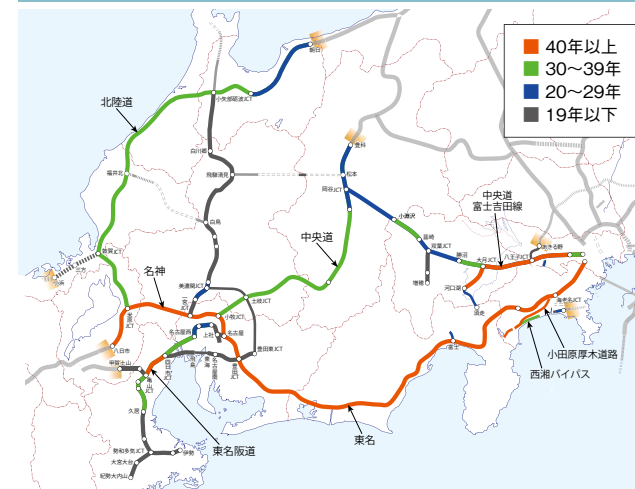
国民生活に必要不可欠な高速道路を、構造物の老朽化などの
環境変化に対応し、健全な状態で百年以上維持します。

お客さまに安全で安心してご利用いただける「百年道路」を目指して、道路構造物の老朽化、車両の大型化、交通量の増加などの環境変化に対応し、良好な道路資産の維持に向け、効率的で効果的な道路機能保全対策を推進します。

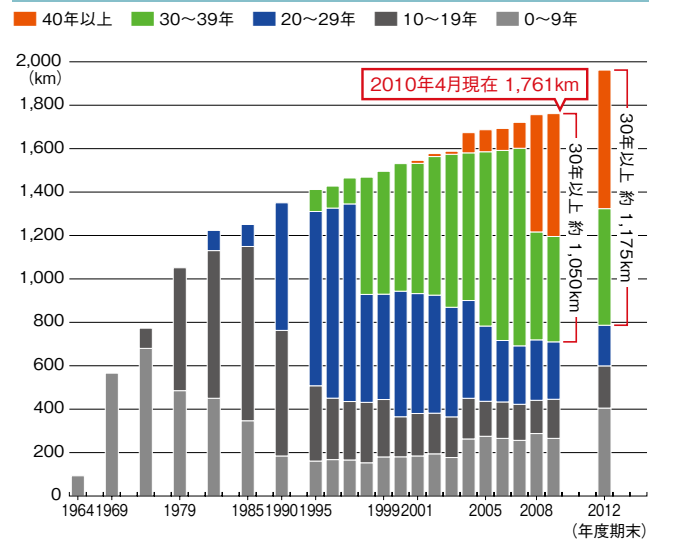
高齢化した高速道路ストックの現状

当社グループの管理する高速道路(1,761km(2010年4月現在))のうち、供用後40年を経過する東名・名神をはじめ、供用後30年を経過する道路が全体の約6割を占めます。

2010年4月現在の経過年数



営業中路線延長の推移



「百年道路」計画の実施

高齢化する高速道路ネットワークに対し、国民生活に必要不可欠な高速道路を健全な状態で百年以上維持するため、対症療法的な「事後保全」から「計画保全」への転換を推進します。(「百年道路」計画の実施)



橋梁の安全点検



橋梁のはく落防止対策



道路情報板の点検

より快適なサービスエリアへ

感動を与えるサービスエリアを目指して、「お招き」と「おもてなし」の心で、「お客さまにとっての真のくつろぎの場」「お客さまと地域のふれあいの場」としてのサービスエリアを創造します。

お客さまにとって真のくつろぎの場となるサービスエリアを目指し、複合商業施設化を推進して新しいショップや新業態を積極的に導入します。

また、沿線自治体やサービスエリアの周辺地域との連携を強化し、テナントと一体となったサービスの向上など、お客さまとの交流が広がるサービスエリアづくりを進めます。

大規模改良による複合商業施設化計画

店舗のリニューアルにあわせ複合商業施設化を実現し、新しいショップや新業態の積極的な導入により、さまざまな場面に応える魅力的なショッピング環境やスタイリッシュなサービスでお客さまを「お招き」し、「おもてなし」します。

■複合商業施設オープン予定

2010年度(5箇所)		
東 名	足柄SA	上り・下り
名 神	多賀SA	下り
東 名 阪	御在所SA	上り・下り
2014年度まで(3箇所)		



東名 足柄SA(下り) 内装イメージ



東名 足柄SA(下り) 外観イメージ

サービスエリアの周辺地域との交流

サービスエリアの周辺にお住まいのお客さまのために、「ぶらっとパーク」のさらなる整備をすすめるとともに、サービスエリア施設を地域のお客さまの文化教室などに開放し、地域に愛されるサービスエリアを目指します。地域に根ざした店舗や地産地消の推進を通じて、お客さまと地域との交流が広がるサービスエリアづくりを進めます。



北陸道 南条SA(下り)「ぶらっとパーク」

駿河湾を震源とする地震による 東名高速道路牧之原地区盛土のり面の災害復旧

一刻も早い復旧を目指し、24時間体制で NEXCO中日本グループ一体となって対応しました。

2009年8月11日5時7分頃発生した駿河湾を震源とする地震により、東名高速道路牧之原SA近くの盛土のり面が崩落し通行止めとなりました。NEXCO中日本グループでは、昼夜にわたり全力で応急復旧工事を実施し、地震発生から115時間後の8月15日24時をもって、この区間を含む地震の影響による通行止めをすべて解除しました。

概況など

- ・震源地：駿河湾
- ・震源の深さ：23km
- ・地震の規模：マグニチュード6.5
- ・最大震度：6弱



被災直後



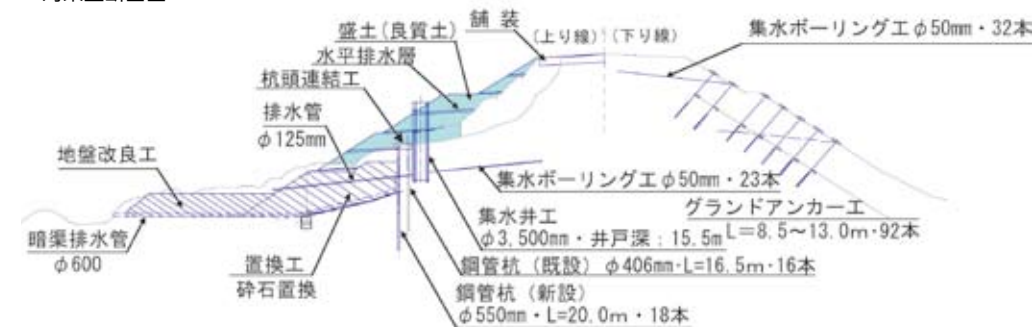
応急復旧後



本復旧に向けて

今回の崩落は、地形、地震強度、降雨など複数の要因が重なって発生したと想定されることから、原因を究明するため、外部有識者を迎えた検討会を設立しました。検討結果を踏まえ、本線通行に重大な影響を及ぼさないよう、また安全性を第一に施工性・経済性などを総合的に考慮して対策工を決定し実施しました。

■対策工断面図



本復旧の状況

2009年度開通、新東名高速道路実証実験

新たな高速道路の開通により地域への期待に応えます。 また、「世界をリードする高速道路システム」を構築します。

2009年度は計4.8kmが新たに開通しました。開通により高速道路ネットワークの利便性向上や周辺道路の渋滞緩和などの効果がもたらされ、地域の期待に応える道路として、その役割を担っています。

また、新東名高速道路の静岡県内の概成区間を活用し、安全・快適性の向上、環境負荷低減、コスト縮減などを目指した実証実験を行っています。

2009年度開通区間



新東名高速道路での実証実験メニュー

大断面トンネルでのランプの長寿命化、省エネルギー化や走行視環境改善を目指して、新たな光源を活用した照明灯具の技術開発・適用評価を行っています。

また、お客さまに美しく快適なお手洗いなどの休憩施設を提供するために、さまざまな人の使いやすさを追求しています。

■先行車の視認性を向上させるプロビーム照明の採用



■新光源の採用／セラミックメタルハライドランプ



長寿命化が期待できます
マスコミへの公開模様（金谷トンネル）

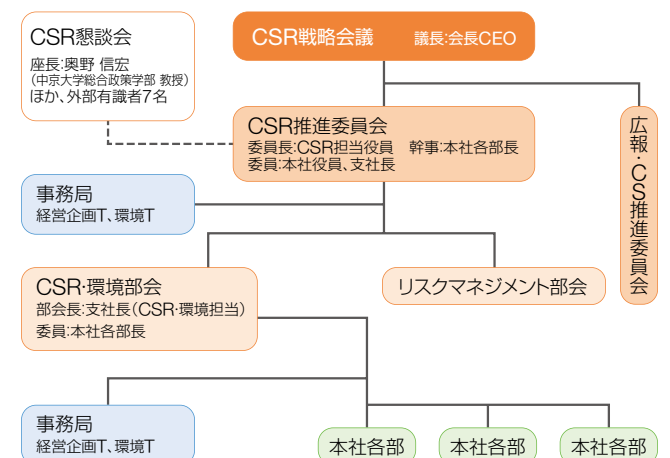


きめ細かな情報提供・高齢者対応
洋式化率90% 洗浄付き便座の整備
障がい者・介助者にやさしいお手洗い
女性が使いやすいお手洗い
洗髪洗面台・シェーバー用。コンセントの設置
効率性・安全性に配慮した清掃が可能

CSRマネジメント①

■CSR推進体制

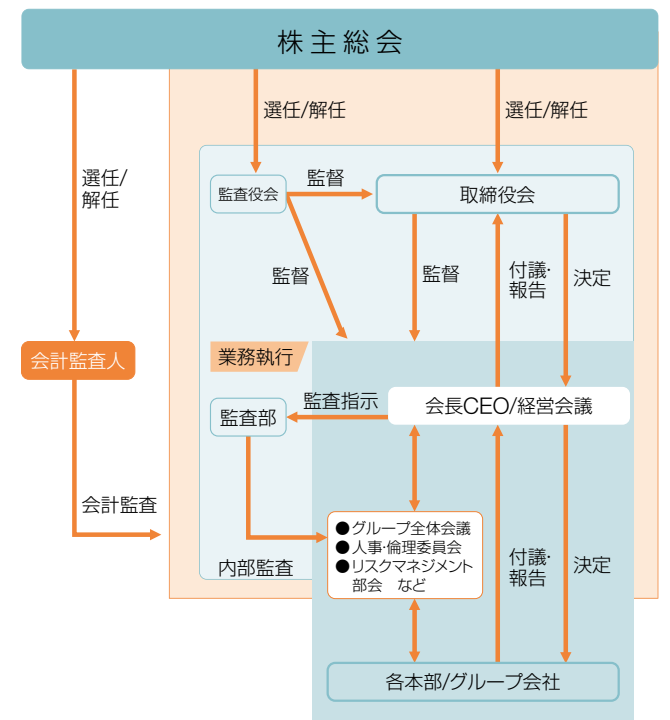
当社では、会長CEOが議長である「CSR戦略会議」のもと、2つの委員会（CSR推進委員会、広報・CS推進委員会）において、当社のCSR推進を戦略的に展開していく体制を構築しています。



■コーポレートガバナンス

当社では、2006年5月に「業務の適正を確保するための体制に関する基本方針」を策定し、この方針に基づき、各種内部統制システムを整備しています。

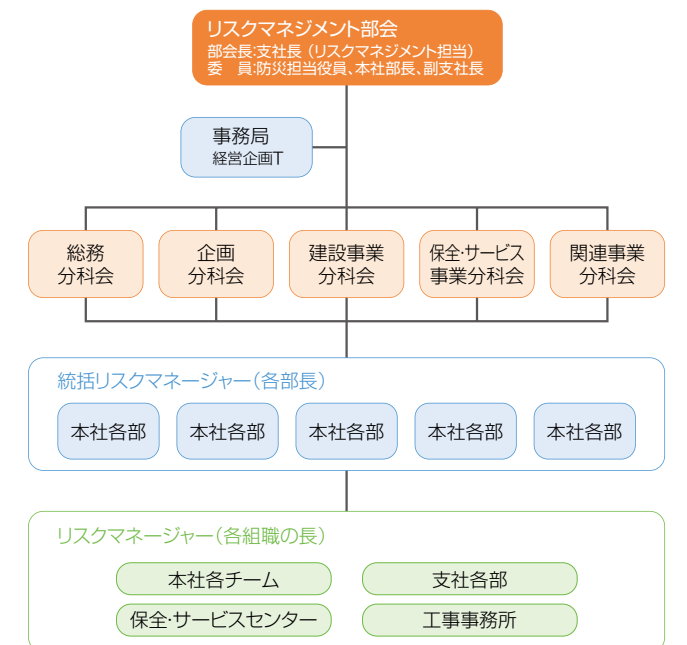
■ガバナンス体制



■リスクマネジメント

当社グループでは、事業活動に関わるさまざまなリスクを適切に対処するため、内部統制システムの一つであるリスクマネジメントシステムを整備しています。また、新型インフルエンザの流行など、最近のリスク動向についても把握したうえで、リスク発生の状況下当社グループが取るべき行動計画を作成しています。

■リスクマネジメント体制



◎新型インフルエンザ対策



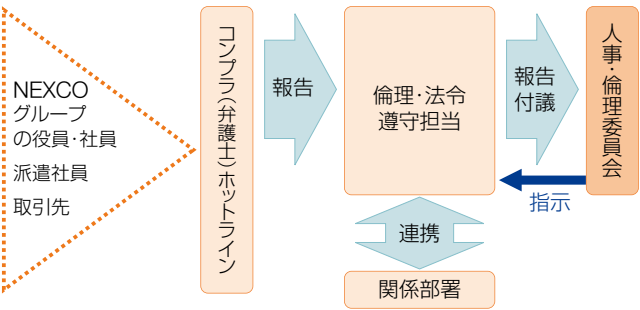
料金所収受員マスク着用
交通管理隊マスク着用
検温状況

CSRマネジメント②

■コンプライアンス

コンプライアンスの推進は、当社グループが目指す企業像である「良い会社で強い会社」の実現に向けて、必要不可欠なものと認識しています。単なる法令遵守ではなく、社会的要請へ適切に対応することと捉え、積極的に取り組みを行っています。

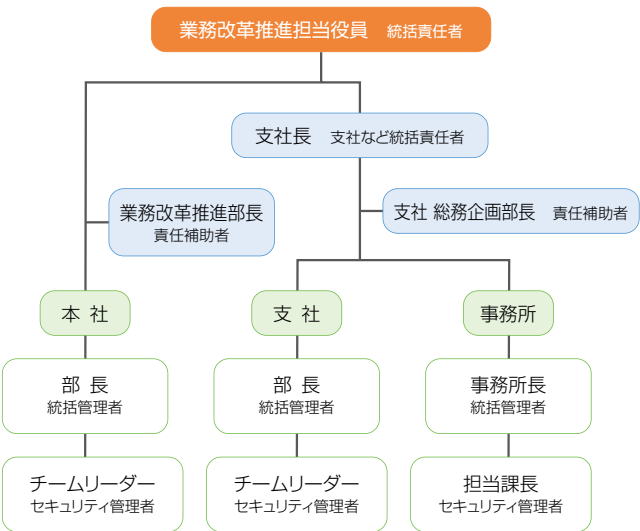
■社外相談窓口（コンプラホットライン）の設置



■情報セキュリティ

当社グループでは、個人情報をはじめとする情報資産の安全確保のため、情報セキュリティ対策の充実・強化を図ります。また、情報技術の進展に対応したIT化の推進や災害時の事業継続性の強化など、総合ITマネジメントを強化していきます。

■推進体制



◎情報セキュリティの向上

主な情報セキュリティ対策については、下記のようなものがあります。

- ・情報セキュリティキャラバンの実施
- ・カード認証（フェリカ）の導入
- ・個人の外部記憶媒体の持ち込み禁止
- ・入退室管理システムの導入
- ・PC操作記録システム（SeP）の導入
- ・暗号化ソフトの導入

■グループ総合力の強化

当社グループでは、グループ全体で経営理念・経営方針を共有し、コンプライアンスの徹底や新規リスク対策などのガバナンスを強化しています。また、グループ一体となった人材育成や業務改革などによりグループ総合力を強化し、グループ経営の活性化・効率化を推進します。

■国連グローバル・コンパクトへの参加など

当社グループでは、グローバル社会においてより積極的に道路事業者としての責務を果たすとともに、他企業や他機関とCSRに関する価値観を共有し、連携を図っていくことは大変重要であると考えています。

◎国連グローバル・コンパクトへの参加

当社は2008年7月に国連グローバル・コンパクト（GC）の10原則に賛同・署名し、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク（GC-JN）に参加しました。またCSR報告書研究分科会などにおいて、積極的な活動を行っています。

国連グローバル・コンパクトの10原則		
人 権	原則1	企業は、その影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
	原則2	人権侵害に加担しない。
労 働	原則3	組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
	原則4	あらゆる形態の強制労働を排除する。
	原則5	児童労働を実効的に廃止する。
	原則6	雇用と職業に関する差別を撤廃する。
環 境	原則7	環境問題の予防的なアプローチを支持する。
	原則8	環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
	原則9	環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。
腐敗防止	原則10	強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。



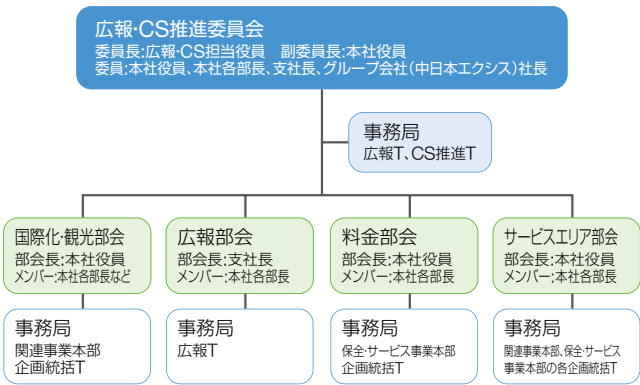
分科会活動状況

お客さまとともに

■お客さま第一の徹底

グループ全体で事業活動を通じてお客さまをはじめとするステークホルダー（利益共有者）の皆さまの満足向上に努めます。CS活動や社員教育を推進していくことにより、「お客さま第一」を徹底し、信頼と好感を得られる企業を目指します。

■広報・CS推進委員会の体制



■お客さまとのコミュニケーション

お客さまに当社グループをより一層ご理解いただくために、各種イベントなどを実施して、お客さまとのコミュニケーションの機会を大切にしています。また、メディアを活用して事業情報や企業情報の発信を積極的に行っています。



ふじのくに交通安全県民フェア

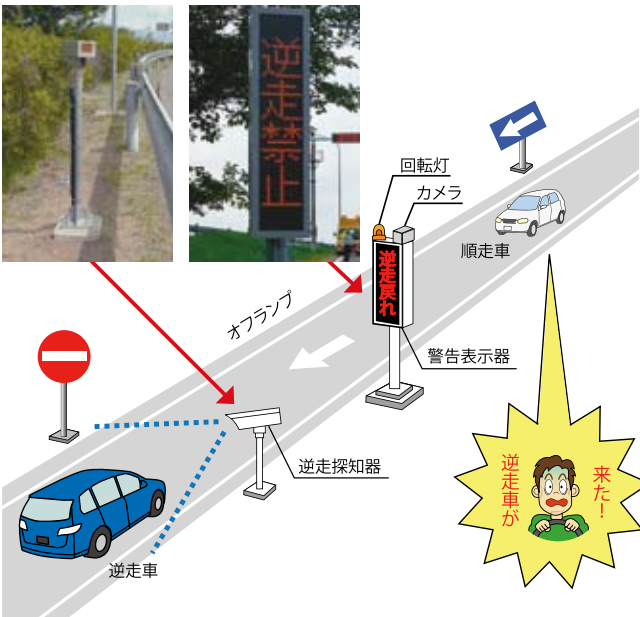
■交通事故対策

お客さまに安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供するため、事故多発箇所での対策、逆走事故の防止対策などを実施するとともに、高速道路の安全走行ガイドの配布など安全啓発活動を進めています。

■主な事故防止対策



■逆走事故対策



◎交通安全の啓発活動



お客さまとともに

■ 交通渋滞対策

安全・渋滞対策の推進のため、4車線化などの車線増設を行うなど、渋滞緩和に向けた取り組みを行っています。また、新料金割引による交通量増に対し、きめ細かな情報提供やサービスエリアにおける混雑対応など、お客さまの安全・安心・快適のための十分な対策を実施します。

◎ 暫定2車線（対面通行）区間の4車線化



暫定2車線時



4車線化完成後

◎ 新料金割引施策への対応



速度低下注意喚起



渋滞末尾の追突注意喚起



特設トイレの設置



日差し・暑さ対策（噴霧装置の設置）

■ より快適な高速道路空間を目指して

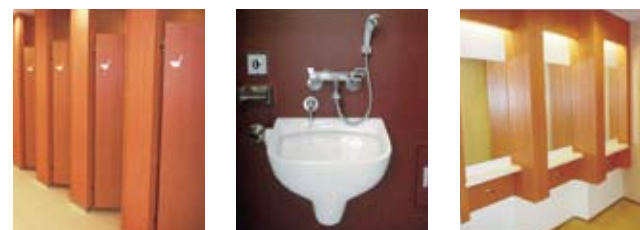
多様化するお客さまのニーズにお応えし、「お招き」と「おもてなし」の心でお迎えするため、常に「お客さまの声」に耳を傾け、いただいたご意見・ご要望について積極的に対応し、お客さまに快適に走行していただける高速道路空間を提供します。

◎ 情報提供の充実



重大事故通行止め表示

◎ お手洗いの美化



段差解消

オストメイト対応

パウダーコーナー

■ ビジット・ジャパンへの対応

政府の外国人訪日旅行推進戦略「ビジット・ジャパン・キャンペーン」に積極的に取り組み、海外からのお客さまがご利用しやすい高速道路を提供します。



休憩施設 外国語表記



ピクトグラム表示

地域社会とともに

■ スマートICなどの整備

お客さまの利便性を高め、さらに地域間の連携の強化、地域生活や産業の活性化などを目的に、スマートICなどの整備を進めています。

■ スマートIC一覧（運用中）

営業開始年度	路線：スマートIC名称
2006	北陸道：①入善、②徳光 中央道：③双葉
2007	東名：④富士川、⑤遠州豊田 東名阪道：⑥亀山PA
2009	東海北陸道：⑦ひるがの高原 東海環状道：⑧鞍ヶ池 北陸道：⑨南条、⑩安宅、⑪流杉

■ スマートIC一覧（事業中）

完成予定年度	路線：スマートIC名称（仮称）	完成予定年度	路線：スマートIC名称（仮称）
2010	長野道：⑫梓川	2013	名神：⑬湖東三山
2012	中央道：⑭府中	2014	東名：⑮守山

■ 主な追加JCT・IC完成予定

完成予定年度	路線：JCT・IC名称（仮称）
2012	名神 養老JCT 伊勢湾岸道 東海JCT
2013	東海北陸道 西尾張IC

■ NEXCO中日本管内スマートIC位置図



■ 地域と密着したサービスエリアづくり

沿線自治体、サービスエリア周辺の地域や施設との連携による、地産地消の推進やタイアップキャンペーンなどを実施しています。また、地域との交流イベントとして、東名高速 富士川SA、牧之原SAで富士山静岡空港開港記念の物産展を開催し、地域連携を進めています。

地域特産品の販売
（東名 海老名SA
（上り））地域との
交流イベント
（東名 富士川SA
（上り））

■ 包括的提携協定による地域活性化

関係自治体や地域拠点大学と包括的提携協定を締結し、高速道路を活用した地域産業・観光の振興、地産地消の促進、文化の交流・人材育成などにおける連携や、災害発生時の協力体制を強化しています。

なお、2009年度末までに、11県と協定を締結し2010年5月には名古屋大学と包括的提携協定を締結しました。

神奈川県知事と
社長

● 自治体との主な連携事項

- (1) 防災分野での相互協力
- (2) 観光・文化振興分野での相互協力
- (3) 環境分野での相互協力
- (4) 教育・福祉分野での相互協力

地域社会とともに

■ 高速道路関連社会貢献事業の推進

高速道路関連社会貢献協議会と協力して、環境保全対策や地域社会などによる高速道路の有効活用に関する支援事業などを推進します。



緑の里プロジェクト（花壇の整備）

■ 地域・福祉への貢献

当社グループは、常に社会の一員であるということを自覚し、より良い社会づくりに関わりたいという思いを持ち、地域や福祉への貢献活動を展開しています。

◎障がい者団体の就労支援



清掃の様子

◎「交通・災害遺児育英募金」などの寄付



松本市「交通・災害遺児など福祉基金」への寄付

■ 教育への貢献

小・中学生、高校生などの次代を担う世代を育成することを目指して、当社グループでは、事業活動を通じた教育への貢献をさまざまな形で進めています。



依知南小学校での出張講座



現場見学会の様子



高校での講義の様子

■ 文化活動への協力

当社では、独自の手法を通じて、文化・芸術分野の活動を支援しています。

◎チェンソーアートの製作支援



東名 上郷SA（上り）「犬」



中央道 虎渓山PA（下り）「虎」

国際社会との関わり

■ 国際交流・国際貢献

海外道路事業者との関係強化を図るとともに、情報収集や相互の人的交流を深めています。国際会議・セミナーなどへの参加や各国からJICAなどを通じて研修・視察の受入れによる情報発信を行っています。また、当社社員を高速道路専門家として必要な国に派遣することで、国際社会に貢献しています。

◎ベトナムマレーシアとの交流



MOT 副大臣の訪問



ベトナム事務所活動状況



当社社員のPLUS社での研修



PLUS社社員の当社での研修

◎各種国際会議への参加



REAAA会議
当社執行役員の基調講演



インドITS
セミナーへの参加



上海万博での
清掃ロボットの展示

◎NPO活動への参加・協力（NPO法人道普請人）



現地での作業の風景



現地護岸整備状況

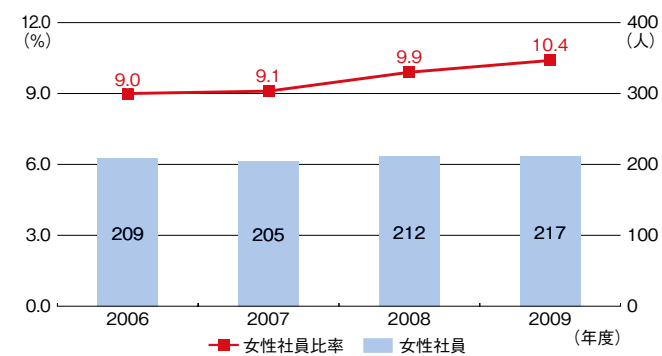
社員とともに

■ダイバーシティ・マネジメント

多彩な人材を活かす企業経営を目指し、女性や障がい者、高齢者がいきいきと働ける職場環境づくりを進めています。

◎女性社員の積極的な採用

■女性社員比率・女性社員数の推移



◎女性社員の「視点」の事業への反映



女性・若手社員プロジェクト



研修風景

◎「女性の活躍推進企業」認定の取得



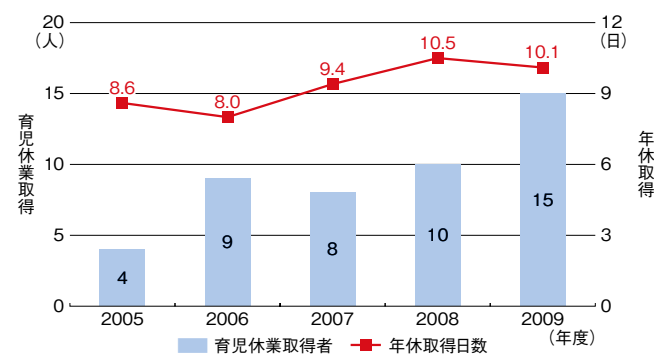
認定マーク

■ワークライフバランスの促進

仕事と家庭や地域活動との調和や社員一人ひとりのライフサイクルやライフステージに応じた休暇の充実、次世代育成支援などの、休暇制度の拡充をはじめとするさまざまな取り組みを行っています。

■育児休業・年休取得実績

※2009年度は時間単位休暇も換算



社員家族の職場見学（圏央道 海老名JCT）

◎社員の健康管理の取り組み



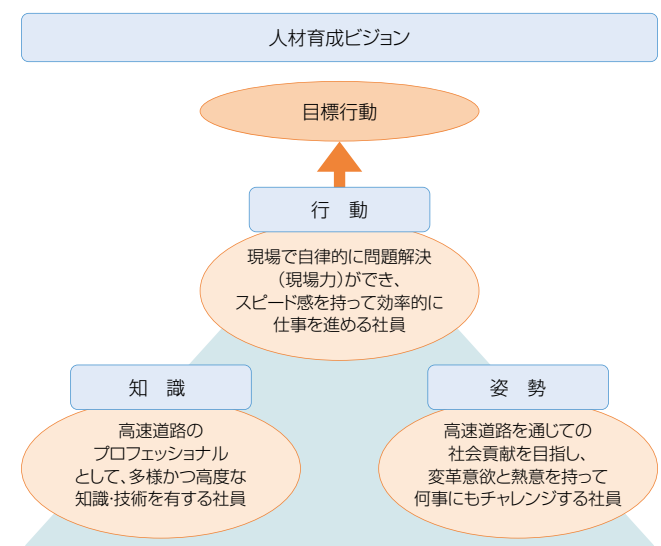
メンタルヘルス研修

■人材育成の充実

人材育成は、企業グループの発展のための最重要課題と考え、グループ全体の「人材育成ビジョン（求める社員像）」を作成しています。

このビジョンに基づき、OJTを基本に、研修や自己啓発などのOFF-JTを拡充し、キャリア・パス（職務経歴）に応じた能力の養成を行っています。

◎人材育成ビジョン（求める社員像）



※現場とは工事事務所・保全・サービスセンターだけでなく、支社・本社も含めたさまざまな問題・課題が発生する場面です。

◎社員研修の充実

<主な研修内容>

- ・階層別研修 12 コース、専門研修 17 コース
- ・他企業などへの研修派遣
- ・海外機関への研修派遣
- ・語学研修の派遣、海外留学 など
- ・大学院派遣研修 など

◎インターンシップ

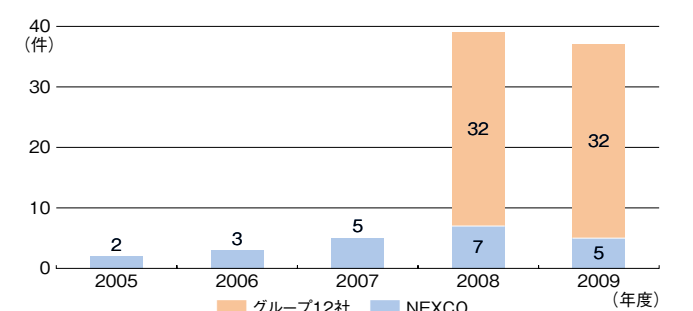


インターンシップの様子

■労働災害ゼロを目指して

労働災害ゼロを目指して、グループ全体で安全衛生に関する委員会を定期的に開催し、労働災害防止に向けた啓発・安全点検を進め、労働災害の分析を行い、その結果を反映した対策を実施しています。

■労働災害事故件数



※グループ12社の事故件数集計は2008年度から



ETCレーン安全通路（中央道 小淵沢IC）

■職場活性化などの取り組み

グループ全体で、職場環境や業務の改善など、職場活性化の取り組み「良い職場づくり」を展開します。また、これらの活動と合わせ、中長期的な取り組みとして、業務改革につながる仕組みの推進に着手します。

◎職場意見交換会の実施



「良い職場づくり」の職場討議



「良い職場づくり」キャラクター「くーまん」

環境方針と地球温暖化の抑制

環境方針

中日本高速道路株式会社は、常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、さらに広く日本経済全体の活性化に貢献します。

当社の事業は、多くの方々のご協力とお客さまにご利用をいただき、広く環境と関わりを持っています。このため、当社の事業活動を通じて地球温暖化の抑制や、資源の3Rとしてリデュース(抑制)・リユース(再利用)・リサイクル(再資源化)を推進するとともに、環境負荷低減のための技術開発を進め、地域との連携を強化して、持続可能な社会形成に努めます。

これらの実現のため、環境マネジメントシステムを構築し、環境の目的・目標を明らかにし、環境法令及び当社が約束した事項の遵守ならびに環境影響の予防に努め、継続的な改善に取り組みます。環境マネジメントシステムの運用に当たり、その基準、手順などを定めて文書化し、定期的に見直します。

当社は、以下に掲げる環境に関する経営上の重点施策等を実施しています。本社の活動は、これらの施策を含む企画・立案・計画策定等で、実施に当たっては、省エネルギーと省資源、業務の効率化を環境負荷低減に向けた主な取り組みとします。

〈経営上の重点施策〉

◎地球温暖化の抑制
高速道路ネットワークの整備や渋滞解消、省エネルギーなどの取り組みにより、地球温暖化の抑制に貢献します。

◎資源の3R 推進
廃棄物の発生を抑制し、事業活動により発生した副産物の有効活用に努めます。また、「百年道路(より高い耐久性を持つ道路)」への改良計画などにより環境負荷を低減します。

◎地域環境への配慮
地域環境への貢献や動植物の生息・生育環境への負荷を低減する「エコロード(自然環境に配慮した道)」づくりを推進します。

この環境方針は、全ての従業員に周知するとともに公開します。

2010年6月1日
中日本高速道路株式会社

(新たにISO14001認証取得に向けて制定しました)

事業活動での地球温暖化抑制の取り組み

当社では、高速道路ネットワーク整備や交通渋滞の緩和、自然エネルギーの利用などの事業活動を通じ、CO₂(二酸化炭素)の排出を抑えることで地球温暖化の抑制に取り組んでいます。

■高速道路ネットワークの整備によるCO₂排出量の試算 単位: 万t-CO₂

	一般道路 走行①※1	高速道路 走行②※2	CO ₂ の排出抑制量 ①ー②
2009年度のCO ₂ 排出量	907.8	766.1	141.7

■交通渋滞によるCO₂の排出量 単位: 万t-CO₂

	2008年度 ①	2009年度 ②	CO ₂ の排出量の増減 ②ー①
交通集中渋滞によるCO ₂ 排出量	6.31	9.49	3.18
工事渋滞によるCO ₂ 排出量	1.85	1.80	-0.05
事故渋滞によるCO ₂ 排出量	1.96	3.08	1.12
CO ₂ 排出量合計	10.12	14.37	4.25

■その他のCO₂排出抑制の主な事例(2009年度) 単位: t-CO₂

CO ₂ 排出抑制対策	CO ₂ の排出抑制量
太陽光エネルギーの採用※3	34
ヒートポンプ方式の融雪装置の採用※4	799
トンネル換気運転制御の改善※5	3,370
効率的な土運搬	2,800
維持作業車両へのバイオ燃料の使用	72

■ETCご利用によるCO₂の排出抑制量(2009年度) 単位: 万t-CO₂

	ETC非利用の 場合①※6	ETCご利用の 場合②	CO ₂ の排出抑制量 ①ー②
ETCの普及・利用促進 (料金所でのノンストップ化) によるCO ₂ 排出量	6.50	4.42	2.08

■高速道路のり面の樹林化によるCO₂固定量(2009年度) 単位: 万t-CO₂

のり面の樹林化内容	CO ₂ 固定量※7
盛土のり面樹林化の実施	1.3

お客さまのご利用によるCO₂排出量(2009年度)

高速道路の走行による排出量※8 **766.1万t-CO₂**



※1 高速道路をご利用したすべての車が、一般道を利用した場合のCO₂の排出量です。一般道路の走行により、渋滞量の増加などが発生しますが、それらのCO₂の排出分は含まれません。

※2 高速道路をご利用いただいた車のCO₂排出量です。

※3 東名高速の定額サービスエリア(SA)、海老名SA、中央道の談合坂SA、新名神高速の土山SA、紀勢自動車道の奥伊勢パーキングエリア(PA)での実績です。

※4 東海北陸道の白川郷インターチェンジ(IC)での実績です。

※5 中央道の恵那山トンネルでの実績です。

※6 ETCをご利用いただいた車(約4.69億台)が、ご利用にならなかった場合のCO₂の排出量です。ETCご利用の場合は料金所前後の減速・加速、非利用の場合は料金所の停車・発進と料金所前後での減速・加速を考慮して算出しています。

※7 樹林によるCO₂固定量を年間、10.6t-CO₂/haとして算出しています。

※8 2009年度の年間の走行量は約255.0億台・kmでした。CO₂の排出量は、走行量(走行台・km)にCO₂の排出原単位を乗じて算出しています。
なお、排出原単位は「国土技術政策総合研究所」141自動車排出係数の算定根拠より設定しています。

4車線化による渋滞対策



太陽光発電による自然エネルギー利用



電気自動車の試験的利用と急速充電器の整備



スマートインターチェンジによる交通の円滑化



高速道路のり面の樹林化(緑化)



「エコ・ショップ」でのLED(発光ダイオード)照明の活用



資源循環（資源の3R）の推進

NEXCO 中日本グループでは、業務を行う中で排出されたものを資源と考え、資源の3R（リデュース：抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生資源化）に取り組むことで、循環型社会の形成に貢献しています。

■トンネル設備の長寿命化と再使用



セラミックハイドランプ（写真）は、従来のランプと比べて約30%寿命が伸びています。長寿命化により、ランプの交換回数が減ることで廃棄物の排出量を抑えることになります。



トンネルの換気性の改善により、不要になったジェットファンを分解・整備して、新たに建設されるトンネルの換気用として再使用します。

■緑のリサイクル（高速道路や休憩施設の管理作業で生じた植物発生材を堆肥としてリサイクル）



高速道路沿道での草刈り・剪定作業



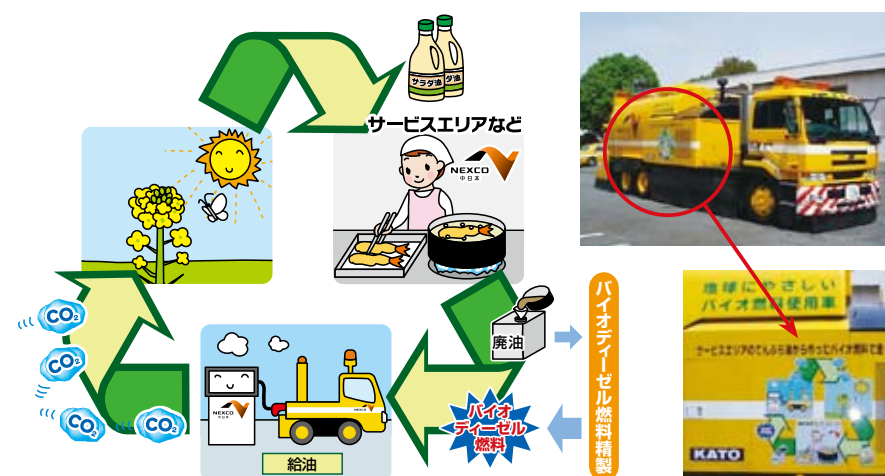
刈草や剪定枝などをプラントで堆肥化します。



高速道路のり面や休憩施設周辺の緑化にあたり、堆肥として利用します。

■廃食用油のリサイクル（自動車燃料への再生）

■廃食用油のリサイクルイメージ図



■植物発生材をストーブのペレット燃料として再生

植物発生材（草・木）から作ったペレット

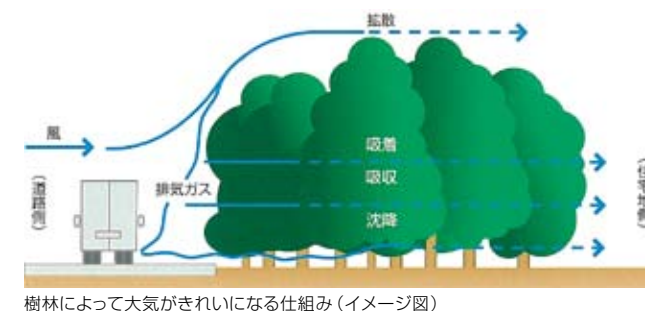


中央道 諏訪湖サービスエリア (SA) の下りに設置した長時間燃焼型ペレットストーブ

地域環境への配慮

NEXCO 中日本グループでは、お客さまと地域の皆さまに良好な環境をご提供できるように、地域環境への配慮の観点からさまざまな取り組みを行っています。

■樹林による大気汚染物質の吸着・吸収



樹林によって大気がきれいになる仕組み（イメージ図）



名神高速 生活環境を保全している樹林

■騒音低減効果のある高機能舗装



低騒音で、雨降りでも路面の水はけが良い高機能舗装の施工状況（写真右側）

■自然型構造護岸の採用とゲンジボタルの保護（新東名高速 引佐ジャンクション (JCT) 付近の河川改修）



自然型構造護岸（2001年）



自然型構造護岸（2009年7月）



ホタル保護の勉強会を行う小学生たち（2009年6月）



確認されたホタルの成虫

■地元の高校のご協力による景観美化



名神高速 五条川高架橋の橋脚に、愛知県立岩倉総合高校美術部の皆さまに地元の風物詩をイメージした壁画を描いていただきました。（左：山車祭り、右：五条川へのぼり洗い〜）

■サービスエリア周辺の樹林で環境とのふれあい（御殿場市内の幼稚園児との交流）



社員手作りの巣箱に園児たちがお絵描きをして、東名高速 足柄サービスエリア (SA) 周辺の木々に巣箱掛けをしました。

足柄SA内の木々を剪定・枝打ちした木材を使って、園児たちがシイタケ菌の菌打ちを体験しました。

■盛土のり面に植樹を行い高速道路沿道の景観を整備



東名高速 山北バスストップ付近の桜

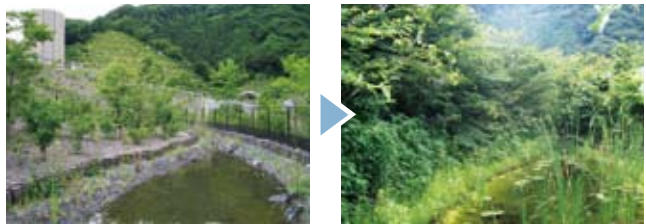
生物多様性への配慮と環境コミュニケーション

NEXCO中日本では、「エコロード（自然環境に配慮した道）」づくりに取り組むとともに、建設に際して地域生態系への影響を回避・低減し、新たな生息・生育環境の創出などを進めて、生物多様性の保全に取り組んでいます。また、社会との環境コミュニケーションを大切に、地域との連携を進めています。

■ 地域性苗木の活用とビオトープの整備により生物多様性に配慮



地域性苗木（その地域に自生する樹木の種子から育成した苗木）を高速度道路や休憩施設周辺の緑化に活用しています。

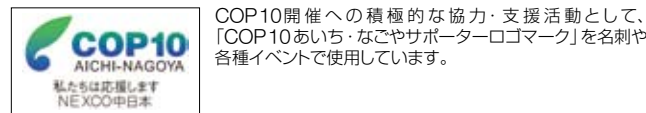


（2007年夏） （2009年夏）
園央道 八王子ジャンクション（JCT）に整備されたビオトープ



アサギマダラ モリアオガエル ウスバシロチョウ
八王子JCTのビオトープ及びその周辺で確認された生き物たち

■ COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）の関連事業への参加と協力



COP10開催への積極的な協力・支援活動として、「COP10あいち・なごやサポーターロゴマーク」を名刺や各種イベントで使用しています。



2009年10月開催のCOP10開催1年前イベントで地域性苗木の植替えをこなす参加者の皆さまにご体験いただきました。



2009年11月開催のメッセナゴヤ2009では、生物多様性に配慮した環境への取り組みをご紹介しました。



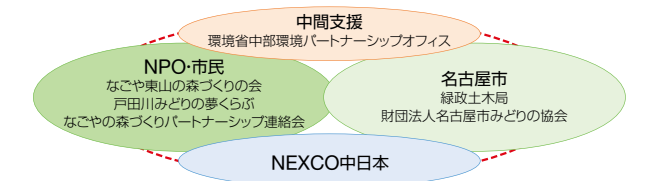
新東名高速の建設発生木材をチエンソーアートにしました。COP10あいち・なごやサポーターロゴマークと共にサービスエリアなどに展示しています。



環境省の生物多様性ロゴマーク
COP10あいち・なごやサポーターロゴマーク

■ 郷土種保全協議会のメンバーとしてNPO・自治体と協働

【郷土種子を活用したなごやの緑化及び生物多様性保全推進協議会】の構成



名古屋市の東山の森でNPO・ボランティアの方々と郷土種のタネを採取しました。



名古屋市内の緑化のために、当社の関連会社の（株）高速道路総合技術研究所・緑化技術センターでタネから育成した郷土種の苗木です。

■ ハイウェイ緑の里プロジェクトの実施



（左：2009年4月、北陸道 金沢市内 右：2009年5月、東海北陸道 郡上市内）

地域の自治会、学校や企業の皆さまと高速度道路のり面などの緑化・美化をする「ハイウェイ緑の里プロジェクト」を2009年度は7箇所で開催しました。

■ フォレストサポーターズへの参加



「美しい森林づくり推進国民運動」を支える「フォレストサポーターズ」に2009年6月に登録しました。「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」の4つの活動を行い、森林をサポートしています。

環境会計

■ 環境会計の導入

NEXCO中日本グループでは、環境・持続可能社会へ貢献するための各種施策を進めております。環境保全活動に関わるコストと効果を定量的に把握し、効率的な施策の実行を目指すとともに、ステークホルダーの皆さまに対して、環境保全活動の結果をわかりやすく開示するために、2009年度より主たる環境保全活動を対象に環境会計を試行導入しました。

◎環境保全コスト

事業活動に応じ、事業エリア内コスト、管理活動コスト、研究開発コスト、社会活動コストに分類し、投資額と費用額のそれぞれについて算出を行いました。その結果、投資額は1,602百万円、費用額は13,838百万円となりました。

分 類		投資額 (百万円)	費用額 (百万円)	
(1) 事業エリア内コスト	1. 地球環境 保全コスト	渋滞対策による地球温暖化防止	603	176
		省エネルギーによる地球温暖化防止	102	28
		植樹による地球温暖化防止	105	38
	2. 地域環境 保全コスト	騒音防止	693	856
		植栽・緑化対策	48	8
	3. 資源循環コスト (資源の3R)	資源の効率的利用、 産業・一般廃棄物のリサイクル	51	12,520
(2) 管理活動コスト	ISO 14001 認証・運用、 環境対策組織運営、環境情報公開 (CSR 報告書など)、社員の環境教育	0	76	
(3) 研究開発コスト	環境保全対策に資する研究業務	0	133	
(4) 社会活動コスト	COP10 関連広報・ イベントへの協賛など	0	2	
合 計		1,602	13,838	

◎環境保全効果

「事業活動から排出する環境負荷に関する指標」「事業活動から排出する廃棄物に関する指標」「その他の指標」に分類して整理を行いました。このうち、事業活動から排出する環境負荷として、渋滞対策などによるCO₂排出削減量は約1,460千t-CO₂となりました。

分 類	取り組み内容	単 位	効果(数量)
1. 事業活動から排出する環境負荷に関する指標（地球環境保全）	渋滞対策	千t-CO ₂	1,438
	省エネルギー	千t-CO ₂	8
	植樹（CO ₂ 吸収）	千t-CO ₂	14
2. 事業活動から排出する廃棄物に関する指標（資源循環）	建設発生土再利用率	%	83
	アスファルト・コンクリート塊再資源化率	%	99
	コンクリート塊再資源化率	%	97
	建設発生木材再資源化・縮減率	%	94
	建設汚泥再資源化・縮減率	%	100
3. その他の指標（地域環境保全）	高機能舗装化	延長(km)	284
	遮音壁の新設	m	300
	遮音壁の高上げ	m	2,000

＜環境会計集計の基本的事項＞

1. 集計範囲
NEXCO中日本（一部、グループ会社を含む）の事業活動
2. 対象期間
2009年4月1日～2010年3月31日
3. 集計方法
環境会計ガイドライン2005年度版（環境省）及びNEXCO中日本グループ内での独自の研究成果を参考にして集計

◎環境保全対策に伴う経済効果

環境保全対策に伴う経済効果については、2009年度において発生が回避されると認められる費用を算定しました。建設発生土などの再利用・再生利用、効率的な土運搬、ガードレール、トンネル設備のリユースなどにより、2009年度全体で27,575百万円の費用縮減となりました。

分 類	取り組み内容	実質的效果 (費用縮減) (百万円)
地球環境保全 (省エネルギー)による 経済効果	トンネル内高効率化照明灯具の採用	27
	効率的な土運搬	490
	ヒートポンプ方式の融雪装置の採用	27
	トンネル換気運転制御の改善	115
	自然エネルギーの活用、エコショップの整備・維持管理	1
資源循環による 経済効果	照明ランプの長寿命化による廃棄物削減	14
	建設発生土などの再利用・再生利用	26,529
	ガードレール、トンネル設備のリユース	168
	廃食用油、植物発生材（内部利用のみ）のリサイクル	97
	サービスエリアにおけるリサイクル	108
合 計		27,575

※建設発生土などの再利用・再生利用に関する経済効果は、当社事業に再利用したことにより発生が回避された資材購入費、処分場への運搬費及び処理費や、他事業に再利用したことにより発生が回避された処分場への運搬費及び処理費を計上しています。

複合コストの考え方

事業活動の環境保全コストのうち、複合コストとして認識されるものについては、NEXCO中日本グループ内での独自の研究成果をもとに設定した算定基準を参考にすると、合理的な基準により按分集計しました。

- ・高速道路ネットワーク整備事業、車線拡幅事業
期待される3便益（走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少）の合計額に対するCO₂排出削減貨幣価値換算額の比率（0.2%）で按分
- ・ETCレーン整備、高機能舗装化など
簡便集計としてコストの25%で按分

CSR懇談会

■CSR懇談会の概要

社外の有識者の方々を委員とした「NEXCO中日本CSR懇談会」を設置し、企業が社会や文化の発展に果たすべき役割や意義、さらには環境に関する事項などについて、大局的な観点から当社経営陣と意見交換をしています。

■CSR懇談会委員

座 長：奥野 信宏 中京大学 総合政策学部 教授
委 員：青山 佳世 フリーアナウンサー
亀山 章 NPO法人地域自然情報ネットワーク 理事長
東京農工大学 名誉教授
川勝 平太 静岡県知事

城戸 真亜子 洋画家
柴田 昌治 日本ガイシ株式会社 代表取締役会長
嶋津 八生 NHK解説委員
服部 力 建築家(株式会社服部都市建築設計事務所主宰)
※敬称略 五十音順

◎第5回CSR懇談会

2010年6月1日に「第5回CSR懇談会」を開催し、新東名高速道路での実証実験、東名高速道路牧之原地区盛土のり面の災害復旧の現場を視察いただいた後、「CSR報告書2010」及び当社が取り組むべきCSR活動などについて、ご意見を伺いました。



第5回CSR懇談会の様子

◎圏央道・中央道の維持管理現場を視察 (第4回CSR懇談会)

2009年12月16日、CSR懇談会の委員の皆さまに、圏央道・中央道の維持管理現場として、道路空間の周辺環境との調和、高速道路ストックの長期保全に向けた取り組みを視察いただきました。



圏央道 八王子JCT視察

◎委員の皆さまからいただいたご意見

災害について

- 今後、地球温暖化の傾向は避けられそうになく、局地的な豪雨などにより、災害の可能性が高まってくるように思う。「百年道路」というコンセプトがあるように、しっかりメンテナンスを行って、災害の発生確率を最小限にする努力をしてもらいたい。
- 東名牧之原地区と類似の盛土箇所の対策について、事前対策の重要性、必要性をもっと周囲に訴えながら、適切に対応していただきたい。

高速道路の長期保全(「百年道路」)について

- 百年先の道路網を考えたときに、リニア新幹線などの将来の鉄道網との関係を視野に入れて、NEXCO中日本としてどのような役割を果たすか、ということを考えていくことも必要。
- 今回のCSR報告書では、安全・安心・快適という部分が、NEXCO中日本の目指す高速道路システムの根幹であることが強調されていることを改めて感じた。

新東名LPなどの最新技術について

- 掛川実証実験センターで見せていただいたトイレは、綺麗で心地よく、そういう機能は非常に良くできており、レストルームとして十分だと感じた。あとはこれを持続できるようにしていただきたい。
- 新東名の実証実験を伺って、社会貢献の使命感のようなものを感じた。

NEXCO中日本事業エリア



事業の対象地域

東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県
岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県